

じいじとのやくそく

滝田 晴菜

「ねたきりでもいいから、生きててね。」

わたしとのなにげない会話。じいじは、今もちゃんとまもってくれているよ。

じいじ。ありがとう。

じいじが元気だったころ、さいすのじいじのおひぎでいっしょにテレビをみていたよね。

「じいじは、はながこんなに大きくなったの見れっかなあ。」

とポソツと言ったから、じいじの光った頭をペシペシしながら、やくそくしたんだよね。

それからしばらくして、じいじはとつぜんにゆういんしたんだよ。ふつうにびょういんに行ったはずなのに、それっきり二年い上、お家にもどってこない。さいしょはうそかと思っただよ。ゆめかと思っただよ。今まで、ずっといっしょにいたのに。毎日、じいじがようちえんの送りむかえしてくれて、おさんぽもいっしょ。夕方はじいじのすきなおすもう、いっしょにみていたのに。じいじがにゆういんして、じいじのさいすで一人さみしくてなっていたんだ。じいじのおいかいでたら、ふとじいじの気もちになった。じいじもわたしと同じ気持ちだよ。じいじといつもいっしょにいたのはわたしだったから。

コロナがはやっていたから、ずっとお見まいに行けなかった。リモートでじいじの顔が見られるようになり、今では週に一回面会に行けるようになった。じいじはもう話すことはできなくなっちゃったけど前と変わらないリスみたいなくくりくりした目をぱちくり開いて、わたしのことを見てくれる。わたしが行くとニコニコになって、口をうごかしてしゃべろうとしているよね。言葉は話せなくても、わたしはじいじの気持ちや話そうとしていることが分かるよ。じいじもわたしも大すきだからだよ。

とちゅうからじいじ、つかれちゃうから、

「じいじ、今週も元気できてくれてありがとう。ねたままでいいから生きててね。」

と、言くと、じいじは、口を上に向かって、にこってわらってくるね。

わたしは、じいじはまだまだ長生きすると思うよ。ねたままで、わたしが大きくなるのを見たいもんね。毎日ごはんやお薬を体にいれてもらって、ねて、おきて、それを何回もちゃんとくりかえしてくれて、じいじはとってもえらい。すっごく大変なのに、毎日がんばってくれてありがとう。生きててくれてありがとう。わたしもね、毎日、わたしのできることをがんばる。ごはんをちゃんと食べて、ねて、起きて、学校行って、バスケット、お友達と遊んで、何回もくりかえして、大きくなる。一週間に一ミリくらいかもしれないけど、大きくなったわたしで、元気に会いに行く。そして、じいじに毎週伝えるよ。

「元気でいてくれてありがとう。やくそくまもってくれてありがとう。大すきだよ。」
つて。

評価のポイント

過去から現在へ祖父と過ごす日々を、孫の視点で情緒的につつられている。読んだ人の心を温かくしてくれる。